



〈こども版〉 としょかんだより No. 323

6月号

わくわく本だな

富山市立図書館

今月のおすすめ



= 1・2年
= 3・4年
= 5・6年

—あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします—



「ほんなんてだいきらい！」 (えほん)

バーバラ・ボットナー / 作 主婦の友社

あたしは本がだいきらい！としょしつはっぴょうのブルックス先生は、おかしなかつこうで一年中本をよんできかせる。もう、うんざり。おすすめの本をはっぴょう発表しなきゃいけないんだけど、どの本も気に入らない。ところが、おかあさんの一言で、ひとことであえた本は何だったとおもう？

「ケンタのとりのすだいさくせん」

山下 美樹 / 作 文溪堂

ケンタはかみのけをあらうのがきらいです。あらわないですむ方法ほうほうをいつもかんがえています。ある日、公園こうえんのいけがきであそぶうちに、あたま頭がモジャモジャになってしまいました。そこへことりがやってきて、ケンタの頭にたまごをうんだのです。



「星雲ミカの小さな冒険」 「鳥へっぽこ新聞」誕生篇

斎藤 慎一郎 / 作 晶文社



五年三組で、学級新聞を作ることになりました。へんしゅうちょう編集長は、学級委員の星雲ミカ。悪ガキのハジメといじめられっ子のアキラも新聞係です。おたがいが気に入らない3人でしたが、ツバメのす巣について取材するうちに意外な一面が見えてきます。

あたらしくはいった本

えほん

「とらはらパーティ」 シン・トンゲン / 作・絵 岩崎書店



むかし、^{かんこく}韓国の山のふもとに、しおうりがすんでいました。ある日、よその村へしおをうりにいき、大きなほらあなをみつけます。あなの中をすすむうち、まっくらでじめじめしたところにおちてしまいました。なんとそこは、山のように大きな、とらのおなかの中だったのです。

ものがたり

「バロン、いっしょにあるこう」 大島 まや / 作 PHP 研究所

バロンはもうどう犬でしたが、年をとったので、しごとをいんたいすることになりました。みきちんの家にひきとられ、やさしくしてもらいますが、バロンはさびしくてたまりません。目のふじゆうな前のごしゅじんにもあいたいし、なにより人のやくにたちたいのです。



「ちょんまげくらのすけ」 最上 一平 / 作 国土社



さむらいにあこがれるくらのすけは、村でたったひとりの小学生です。ある日ウメコばあちゃんに、だいじなしごとをたのまれました。村じゅうの家をまわって、むずかしいあいさつ、^{こうじょう}“口上”を言うのです。くらのすけは、まちがえずに言えるでしょうか。

「シュークリーム星のオヒメサマ」 高山 栄子作 佼成出版社

ひかりは、新しいクラスがあまり好きになれません。今日も一人で家に帰ろうとしていると、ケーキ屋のおくさんがとくべつにシュークリームをくれました。ふくろをあけたとたん、シュークリームはなんと車に変身して、ひかりシュークリーム星へつれていったのです。



ものがたり

「 しあわせラーメン、めしあがれ 」

上條 さなえ / 作 汐文社



仁吉^{にんきち}とママは、「お金がなくてもスマイル」を口ぐせにくらしています。そんな仁吉たちと同じ家に住むことになったのが、小春おばあちゃんでした。伝説のラーメン屋をはんじょうさせたおばあちゃんは、お金をたくさん持っています。安い材料で工夫した食事には、ケチをつけるのです。

「 手のひらにザクロ 」

田部 智子 / 作 くもん出版

花^{はな}は、ほらあなから発見^{はっけん}された、めずらしい仏像^{ぶつぞう}を見に行きました。赤ちゃん^だを抱く女の人の小さな仏像です。するととつぜん、花の耳に、「ここに、いたい」という仏像^きの音が聞こえました。足もとに落ちていた一つぶのザクロからは「たすけて」という声もします。



ちしきの本

「 古代エジプトのものがたり 」 (えほん)

ロバート・スウィンデルズ / 再話 岩波書店



古代エジプト文明^{ぶんめい}は、ナイル川^{たいよう}と太陽のめぐみによって3千年もの長い間栄え^{さか}ました。神殿^{しんでん}やピラミッドの壁^{かべ}には、神々の物語^{かみがみ}が象形文字^{ものがたり}で残^{しょうけい}されています。太陽神^{のこ}ラーが世界^{しん}を作るようすやファラオ(王)とまほうの物語^{しょうかい}など、エジプトの神話を紹介します。

「 なんてん先生の俳句の学校 1 季節のことばを見つけよう 春夏 」

坪内 稔典 / 監修 教育画劇

「閑かさや岩^{いず}にしみ入る蝉^{せみ}の声」これは、松尾芭蕉^{まつおばしょう}の有名な俳句で、「蝉」という「季語^{きご}」が使われています。「季語」とは、季節をあらわすことばです。この本は、春と夏の季語のほか、季節の行事や料理などもしょうかいしています。



こんげつのとくしゅう

雨の本



雨がふっている日でも、
本をよむと、心がカラッと
はれますね。



- 「おじさんのかさ」 (えほん) 佐野 洋子 / 作 講談社
りっぱなかさをぬらしたくないおじさんは、雨の日もかさをさしません。
- 「しずくの^{くびかさ}首飾り」 ジョーン・エイキン / 作 岩波書店
北風がくれたふしぎな首飾りは、雨をあやつることができました。
- 「雨の日がたのしくなる本」 (ちしきの本)
アンジェラ・ウィルクス / 作 メディアファクトリー
家の中でできる工作やおかし作りなどを、たくさんしょうかいしています。

シリーズしょうかい

「おれたち、ともだち！」シリーズ (えほん)

内田 麟太郎 / 作 偕成社



“ともだちや”という仕事をはじめたキツネと、ひとりぼっち
だったオオカミが、本当のともだちになったお話です。
10さつでています。

「ともだちや」

1じかん100えんの“ともだちや”!?キツネが
はじめたのは、少しか
わったしごとでした。

「ごめんね ともだち」

オオカミはキツネとけ
んかしました。本当は
「ごめんね」と言いた
いのです。

「ともだち おまじない」

となえると、ともだち
ができるおまじないの
本。「はじめりはちいさ
なこえのこんにちは」

< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7273